

ヒトパピローマウイルス (HPV) 検査をお受けになる方へ



世界保健機構 (WHO) はヒトパピローマウイルス (HPV) を発がん物質と認定し、細胞診検査と HPV 検査を併用して行う方法を推奨しております。

この併用検診は、徐々に全国の市町村でも広がりつつあります。

そこで、山形市医師会子宮がん検診委員会が実施主体となり併用検診の優位性等について調査研究することになりました。

より精度の高い子宮頸がん検診に是非ご参加ください。

なお、検査結果は個人情報取扱い規約に基づき十分配慮し、目的以外に使用することはありません。

調査研究内容

1. HPV 検査併用検診と細胞診検査単独検診とで前がん病変の発見率を比較します。
2. 細胞診検査と HPV 検査の両方が陰性の場合、検診間隔をどこまであけられるかを調べます。
3. 細胞診検査と HPV 検査の両方が陰性の受診者様の割合を調べます。
4. 検診終了年齢の設定について検討します。
5. 精密検査の受診率を調べます。

どうやって検査するの？

細胞診検査で残った細胞で検査します。改めて検体の採取は必要ありません。

何歳でも受けることができるの？

30歳以上の方が対象年齢ですが、20歳代の方も拒みません。
(20歳代の方は、自己免疫で自然消滅する細胞も陽性とするため、過剰診断になる可能性があります。)

受診勧奨をさせていただきます

「細胞にわずかな異常または HPV 検査が陽性」となり指導区分が「1年後に専門医 (婦人科) を受診してください。」となった方に、山形市医師会健診センターまたは検診実施医療機関より1年後受診勧奨をさせていただきます。(早く婦人科を受診しても検査できません。)

HPV検査が陽性でも大丈夫なの？

HPV 検査が陽性でも細胞に異常が見られないときは、あわてる必要はありません。

HPV検査の料金は？

検診実施医療機関にお問合せください。
(子宮頸がん検診の自己負担金等は別途です。)

申し込みは？

医療機関 (婦人科) の窓口でご相談ください。

お問い合わせ先

一般社団法人山形市医師会 山形市医師会健診センター TEL. 023-645-7222

子宮頸がんの原因

ヒトパピローマウイルス(HPV)検査を受けましょう

子宮頸がんと
ヒトパピローマウイルス
(HPV)

子宮頸がんは、主に性交渉により HPV に感染することで発症します。

近年、**1000人に1~2人**の割合で子宮頸がんになる人がいます。

HPV 感染者の子宮頸がん発症リスクは HPV 非感染者の**400倍以上**とされています*。

* 喫煙者の肺がん発症リスクは非喫煙者の4倍

HPV 感染から 5~10 年以上かけて、一部ががんへと移行します。



細胞診

子宮頸部から採取した細胞の「形」を顕微鏡で調べます。

がんの発見率が高いですが、前がん病変の発見は**約30%の見逃し**があるとされています。



HPV 検査

HPV 検査は、**ウイルス感染の有無**を判定します。

採取した細胞中の HPV の存在を直接調べるため非常に精度が高い検査です。



細胞診とHPV検査を併用するメリット

- ① **がんになる前(前がん病変)**の段階でほぼ**確実に**見つけることができます。
- ② 前がん病変で見つけることができれば、**子宮を残して**治すことができます。
- ③ 将来がんになる**リスクも分かります**。

HPV 検査は世界中の子宮頸がん検診で行われており、日本産婦人科医会からも細胞診と HPV 検査を併用することが推奨されています。



HPV 検査をご希望の方は、**裏面をご覧ください**。